

令和7年度 学校評価 評価書

評定：3…よくできた・そう思う 2…できた・どちらかといえばそう思う 1…あまりできなかった・どちらかといえばそう思わない 0…まったくできなかった・そう思わない

| | 教職員自己評価 | | | 保護者アンケート | | 学校関係者評価 | | |
|---------------|--|-----|--|---|-----|---|-------|--|
| | 評価項目 | 評定 | 現状・課題等 | 評価項目 | 評定 | ご意見 | 今年度評定 | 改善の方向性 |
| 主体的・対話的で深い学び | 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践 | 2.3 | 支持的風土を作ろうという学級経営が、広く実施されている。また、委員会活動などを通して、学校全体でも支持的風土を広げるよう、取り組みをすることができた。「伝えること」については、対話ではなく、意見を出すだけで終わってしまうことが多い。ICT機器を活用できる場面がどんどん増えている。アナログの良さもあるので、上手に使い分けたい。 | ②おさんは、授業が分かりやすいと言っている。 | 2.1 | ・よく工夫され、よい風土をつくっておられるように感じる。 ・コミュニケーション能力の育成のために、ICTをどう活用しているのか。ICTが答え見つけのために使われていないか危惧する。 | 2.6 | 支持的風土を育てることは、次年度以降も継続して実施していきたい。「～人は人の中で人となる～育ち合い、一人一人が主役になれ～」という学校目標を意識しながら、他者との交流を通して支持的風土にあふれた学校を作りたい。 教師の指導力向上のために、特に若手の教員が先輩の授業を積極的に参観し、良いところを取り入れられるようにしていく。 基礎的な力の定着について、支援が必要な子を見落とさないよう、早い段階から見取って、すくっていくようにする。 読解力や問題をイメージする力が不足している子が見られる。イメージする力を育てるために、より読書活動を充実させたい。 情報リテラシーをさらに高め、ICT機器との上手な付き合い方を子どもたちに身に着けさせたい。そのため、家庭との連携も必要と考える。ICT機器は、使いどころを精選して使用したい。 |
| | 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む) | 2.1 | 学習の定着度に差が見られる。基礎的な力をすべての子が身に着け、その上に、新たな学習内容を積み上げていけるようにしたい。 | ⑤おさんは、学級の一員として大切にされている。 | 2.4 | ・教室や廊下には本は置いているが、図書室にある本が生徒数に比べて少ないように感じる。増書はできないだろうか。 ・読書については、環境づくりが大きく左右されるかと思う。家庭でもまわりの読書する見本の大人や友人が増えると習慣として身につくのでは。 | | |
| | 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施 | 2.2 | | ⑧おさんは、読書を楽しんでいる。 | 1.6 | | | |
| 道徳教育の充実 | 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施 | 2.5 | 教材の話に対し、自分事としてとらえようとする意識が感じられる。教師用教材で、アニメーションが入っている単元があり、使用する子ども達も、より話の中に入り込んでいる様子がある。 | ④おさんは、優しさを思いやりの心を持って人に接している。 | 2.4 | ・家庭での教育力、地域での教育力が低下してきており、心の余裕のなさ、相互援助の気持ちが弱まってきているように思う。 ・ほかほかハートフルデイ、道徳参観などの取組のようすがよく分かる。 | 2.7 | ・昨年に引き続き相手の気持ちや状況などを想像する力を身に付けるために、道徳の価値項目を統一して道徳参観をしたり、必要と感じたときに学習を設定したりする。 ・道徳の教材を保管できる場所を決め、継続して教材保管ができるようにしていく。 ・ほかほかハートフルデイ、ほかほかハートフルウィークを実施し、道徳の学習だけでなく日々の中で人権について考えられる時間を設定する。 |
| | ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究 | 2.0 | 道徳で使った資料、挿絵などの教材やワークシートなども残していきたい。 他教科やホームルームの時間などに、道徳の実践をした子をほめたり、道徳ノートに主題や価値観を大切に記述している場合に特別付箋をつけたり、こちらから紹介したりしている。 | ⑨おさんは、あいさつができています。 | 2.0 | ・廊下に掲示されているので、目につきやすく意識されているのが育。 ・あいさつやマナーについては、学校だけでなく家庭によっても大きな差が出る。防犯の面も考えるが、地域や学校の取組の中で家庭でも話してほしい。 | | |
| | 保護者等への道徳科の授業公開 | 2.4 | ほかほかハートフルデイに加え、ほかほかハートフルウィークがはじまり、人権について考える機会が増えた。今後も続けていきたい。 | ⑩おさんは、集団生活のルールやマナーを身につけている。 | 2.3 | | | |
| 体力づくり | たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善 | 2.3 | OJT研修や定期的な通信等で教員の指導力向上や体育的な考え方を広めてきた。また、体育の学習や体育的行事を通して、身体を動かすことの気持ちよさや大切さを感じることができるようになってきた。しかし、体育や身体を動かすことを率先して行っている子と、そうでない子が二極化していることが課題といえる。また、今年度の体力テストの結果から全国や滋賀県の平均よりも全体的に低い数値となっていることから、身体を動かすことへの意欲の低下が課題となっている。 | | | ・北リンピックはより取り組みと思う。 ・草休みなど、縄跳びや運動場で遊んでいる姿が見受けられる。 ・北リンピック(運動会)だけでなく、様々な運動の取組を通じた活動は良いと感じる。 | 2.9 | 生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育成するためにも、子どもが自ら進んで学びたいような体育の学習が大切となる。そのためにも、毎日の体育の宿題の継続や、体育的行事の継続、教職員の指導力の向上を行うことは欠かせない。毎日の体育の宿題は、今までのやり方からさらに保護者にも協力して行ってもらいやすくする方法を考えていく。 体育的行事は、北リンピックにおいて学年間での活動の取り組みや、短縄・長縄への取り組みを継続して行う。 教職員の指導力の向上は、校内でのOJT研修や体育通信の発信を通して、体育的な考え方をより広めていく。そうすることで子どもたちが「やりたい」「やってみよう」「できそう」と意欲を持ち、「できた」と感じることでできる授業づくりを行ってほしい。 |
| | 体力づくりを推進する運動実践 | 2.1 | | ⑦おさんは、すすんで体を動かす遊びや運動をしている。 | 2.3 | ・外で学校教育以外の場で遊ぶこと、特に外で一緒に交流し、遊ぶ機会が減少してきているように感じる。 ・北リンピックや縄の大会など、体を動かす機会が多くて良いと思う。 ・体育行事を年間分けて実施されているので、目的を持って取り組みやすい。 ・運動実践につながる取り組みが行われている。(なわとびなど) | | |
| | 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成 | 2.1 | | | | | | |
| 指導改善(組織的・計画的) | 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善 | 2.1 | 朝学習を活用して基礎的な力の定着に取り組んだ。だが、基礎的な力が身につけていない子どもが一定数いることが課題といえる。そうした子どもたちは学びの土台が不足してしまい、楽しさを感じる前に意欲が減退してしまう。 | ①おさんは、学校での学習を理解している。 | 2.2 | ・宿題への取組は各家庭での教えいばらつきがあるので、統一するのは難しいと思う。 ・教職員の方々の多忙化の緩和する工夫が必要だと思う。 ・自分の苦手な部分を克服する方法が分かっていない。自主学の力をつけるには、最初は親や先生のサポートが必要。具体的に相談できる時間が必要だと思う。 | 2.6 | 朝の学習や、授業時間のミニプリントなど、基礎的な力を定着させる取り組みを実施する。これについては、校内全体での取り組みが必要といえる。各学年ごとに、「この力はつけておけるようにする」という基準を設定し、必要な力を身に付けられるよう、補充学習などを行う。 |
| | 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上 | 2.2 | OJT研修を積極的に実施して教員の指導力向上に努めた。また、校内研究の指導案検討会などは、当該学年以外の教員も参加し、幅広く意見を取り入れて研究を進めることができた。 | ③おさんは、家庭で学習する習慣が付きいている。 | 1.9 | ・子どもさんによって対応が様々求められるので、教員の方は大変だと察する。 ・家庭学習については、各家庭の状況もあるので難しいこともあるかと考える。 | | |
| | 働き方改革の取組と教育活動の質の改善 | 1.9 | | | | | | |
| 家庭・地域との連携・協働 | 子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援 | 2.3 | ・地域や保護者とともに子どもたちを育てていくというスタンスで取り組んでいく必要がある。 ・保護者との連絡を密にし、家庭との連携を図りながら児童が安心して学校生活を送ることができるよう努めた。 ・どの学年も、地域のことを学ぶ学習を教育課程に位置づけ、「ふるさと頼田北を大切に思う子どもの育成」をめざして取り組めた。 | ⑫学校は、学習(行事)参観や学校だより、学年通信、ホームページなどを通して、教育の目標や子どもの活動の様子が分かるように努力している。 | 2.3 | ・心配なご家庭への情報も共有し、相談しやすくなっている。 ・地域への発信・協力がよくなってきていると感じる。 ・地域の活動を保護者に行っている形で見える化してもらい、地域の活動への理解と協力をしてもらいたい。 ・地域への情報発信は、学校からばかりでなく地域からすることも考えてほしい。 | 2.8 | ・学習参観や学校行事を年間計画へ組み込み、保護者に学校の様子を知ってもらえる機会を設ける。また、学校ホームページを活用した情報発信を継続し、日々の学習や生活の様子を保護者や地域へ伝えていく。 ・地域学習を各学年の教育課程に位置づけ、計画的に行っていく。 ・学校運営協議会での熟議を通じ、学校と地域との連携を深めて取り組んでいく。 ・担当者を窓口とし、関係機関との情報共有や協力体制を確立し、子どもや保護者への適切な支援を行っていく。 |
| | 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用 | 2.2 | | ⑬学校は、子どもや保護者の相談に適切に対応している。 | 2.4 | ・参観は多くの保護者が来校している。 ・地域の方や文化財などを効果的に取り入れている。 ・保護者との交流や保護者どうしの交流も必要かどうか。地域との交流の場も回数や内容も検討してもらいたい。 | | |
| | 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり | 2.2 | | ⑮学校は、子どもの安全のためにPTAや地域団体と協力して適切な取り組みをしている。 | 2.3 | ・運営協議会等を通して学校での子どもたちのようすがよくわかるようにしていただいている。また、テレビにて、保護者への発信やPTAの動きなどを開示していただいている。 | | |

| | 教職員自己評価 | | | 保護者アンケート | | 学校関係者評価 | | 改善の方向性 |
|----------------|--|-----|--|---|---|--|-----|---|
| | 評価項目 | 評定 | | 評価項目 | 評定 | ご意見 | 評定 | |
| 保幼小中の連携 | 子どもの校種間交流や教員の出前授業 | 1.9 | 1年生と幼稚園の交流や校区内の園との5・5交流など、園児と児童の交流が行えた。 校区内の保幼小が集まり、接続期カリキュラムについての研修を行った。園と学校が共通理解を図り、系統性を意識しながら取り組むことができた。今年度から、中学校の教員による出前授業を行い、中学校へのスムーズな接続を図るための取組が行えた。ただし、校内での共有が不十分であり、関係する学年以外の教員を含めた連携が課題である。 | | | ・保・中との連携は分らない、小中との連携の状況を教えてもらいたい。幼小との連携はできていると思う。 ・中学校教員による出前授業、5・5交流など、教育課程に位置づけた取組が行われている。 ・5・5交流や出前授業など、園と学校が交流でき、子どもや教師のために貴重な経験となっている。当該学年だけでなく、全校で共通理解できるようにしたい。 ・幼小中の場所が近いこともあり、よく交流できている。 | 3 | ・接続期カリキュラムの実践・検証・見直しを行い、幼稚園だけでなく、校区内の保育園や子ども園とも共通理解を図って取り組んでいく。 ・夏の合同研修の機会を設け、幼小の連携を深め、日ごろの教育に生かしていく。 ・1年生と瀬田北幼稚園との交流を計画的に行っていく。 ・5・5交流を継続し、入学前に小学校での生活を知ったり、上学年の子どもたちと接したりする機会とし、安心して学校生活が送れるような手立てとする。 ・出前授業を通して、接続期の幼小、小中の連携を図っていく。 ・関係する学年だけでなく、学校として保幼小中の連携のあり方を協議していく。 |
| | 校種間の授業公開や合同研修会 | 2.0 | | | | | | |
| | 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究 | 1.8 | | | | | | |
| 生徒指導体制の充実 | いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※ | 2.5 | ・SSRの取組が進み、行き渡りのある子どもにとって、安心して一日のスタートを切れる“自分の居場所”ができたことで、登校に対する心理的ハードルが大きくなり、安定した登校につながった。 ・クラスマネジメントシートを効果的に活用し、いじめや問題行動など各学級が抱える課題を適切に把握し、生徒指導主任や子ども支援コーディネーターを中心に学級の実態に即した課題未然防止教育を実施した。 | ①お子さんは、情報モラルを守り、タブレットやSNSなどを正しく使っている。 2.2 | ②お子さんは、情報モラルを守り、タブレットやSNSなどを正しく使っている。 2.2 | ・地域、関係機関との連携はできているのではないかと。 ・子どもに身につけたい粘り強い実践力「3つの当たり前」が定着している。 ・学校全体が落ち着いているのは、先生方の生徒指導の充実につながっているのではないかとと思う。 ・特に大きな問題があるとは聞いていない。それぞれの問題に向き合ってくれている。 | 2.8 | ・多様な教育活動を通して、子どもが自分の存在を肯定的に感じられるよう支援するとともに、互いを思いやる共感的な人間関係を育成する。また、子ども自身が選択・決定できる場を意識的に設け、主体性を育むことで、学校全体として安全・安心な風土を醸成していく。こうした取組を積み重ねることで、子どもたちがいじめを起ささない、誰もが尊重される風土づくりにつなげていく。 ・「あいさつ・そうじ・聞く」という3つの約束について、全職員が同じ方向性をもって指導を進める。部会などの場を活用し、よりよい指導方法について共通理解を深めながら、職員全員で検討し、実践につなげていくことで、一貫性のある指導体制を構築する。 |
| | 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※ | 2.6 | | ③学校は、子どもに何か問題が起きたときの指導をきちんと行っている。 2.4 | | | | |
| | 家庭・地域・関係機関との連携による指導 | 2.4 | | | | | | |
| 特別支援教育の充実 | 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 | 2.3 | 個別の指導計画は、目標を絞り込み、重点的に取り組んでいきたい。そのためには背景を知り、手立てを考える必要がある。 | | | ・つばさ学級の児童の様子を見ると、一学年進級すると成長している様子が伺え、個々を大切にされているのが伺える。 ・手厚い指導となっていると思われる。 ・支援を必要とする子どもが多い中、先生方同士の連携がされていると感じている。 | 3 | 個別の指導計画作成や、特別支援教育の視点を取り入れた授業実践について、職員への研修を行えるとうい。 部会の中で、情報共有だけでなく、事例検討やうまくいった支援の交流もできるとよい。 |
| | 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立 | 2.4 | 子どもたちそれぞれに応じた支援のあり方について、積極的に相談し合えた。学んだことを学級ですぐに還元していくことができた。 | | | | | |
| | 関係機関と連携した相談体制の充実 | 2.3 | 校内ウイングやポートルームは一定機能し、子どもたちの安心して過ごせる場となった。 | | | | | |
| 3つの約束 | 心を込めたあいさつ | 2.3 | | | | | | 学年の発達段階に応じた具体的なめあてを持たせて取り組んでいく。特に高学年が手本となるよう指導をしていきたい。 委員会活動の中でも、子どもたちの主体的な取組としてできることを考え、実践していく。 |
| | 額に汗するそうじ | 2.1 | どの学年も、3つのやくそくを意識しながら学習、生活に取り組んでいる。しかし、学年によって差が大きいのが課題である。どの学年も、児童の実態に合わせて指導の工夫を図り、継続して取組む必要がある。 | | | | | |
| | 人の話をしっかり聴く | 2.3 | | | | | | |
| 瀬田北の取組 | 校内研究テーマを意識した授業づくり | 2.1 | 校内全体で、算数についてじっくり研究しようという雰囲気が出てきている。子どもが楽しさを感じられる授業づくりについて、来年度以降も継続したい。学習の楽しさを感じながら、基礎的な力を定着させるようにしたい。家庭学習について、熱心に取り組めていること、そうでない子の差が大きい。 | | | | | 教師ひとりひとりが、研究を自分事と考えられるようにしたい。校内のテーマ、学年のテーマをうけて、個人の研究に関するテーマを設定し、より積極的に研究に参画できるようにしたい。 大規模校であるため、テーマをより具体的にして、研究イメージを共有しやすいようにする。 家庭学習については、家庭に発信を続け、連携しながら取り組めるようにしたい。また、「家庭学習の手引き」も活用していく。 今後は、キャリア教育のねらいや育成する力を全体で共有し、学年間の系統性を意識した指導計画を整備する。また、振り返りの機会を充実させ、児童が自らの成長を実感できる取組を進めていく。 図書委員会や図書ボランティアとの連携を強め、児童が図書に親しめる機会を増やしていく。また、図書室の環境整備を進め、誰でも利用しやすく、安心感のある図書室を目指す。 |
| | 家庭学習習慣の確立 | 2.0 | | | | | | |
| | 進路指導・キャリア教育の推進 | 1.8 | 本校のキャリア教育では、各教科や特別活動、行事を通して役割を担う経験を重ね、キャリア教育の視点を意識した指導を行っている。一方で、取組の系統性や学校全体での目標共有が不十分で、学びを将来や生き方と結び付けて捉えにくい点で課題である。 | | | | | |
| | 読書活動の推進 | 2.1 | 月曜日と火曜日に、朝読書の時間を設けている。また、図書室以外にも、オープンスペースに本棚を設置し、図書が手に取りやすい環境をつくっている。しかし、読書に親しむ児童とそうでない児童の差が大きいことが課題としてあげられる。 | | | | | |
| | 国際理解教育の理解と実践 | 2.0 | | | | | | |
| | 集団生活におけるルールやマナーの定着 | 2.2 | | | | | | |
| 学校満足度(児童アンケート) | 2.5 | | ⑥お子さんは、楽しく学校へ通っている。 2.5 | ⑦登下校する子どもたちの笑顔がよく見かけられる。 3 | | | | |